

核燃の大地に咲く花

ここに私たちのくらしがある。

6/14(金)

@おへそカフェ

六ヶ所村

R o k k a s h o m u r a R h a p s o d y

ラブソング

『ヒバクシャ―世界の終わりに』に続く
長編ドキュメンタリー映画

鎌仲ひとみ監督作品

製作 グループ現代



世界中に起きているストーリー。
人類史に普遍的なストーリー。

坂本龍一 (音楽家)



くらしの根っこ、そこに核がある

原子力発電所で電気を作っていることは誰でも知っている。原発に反対する人々と容認・推進する人々がいる。普通の人々が原発について考えようとする、両極端の情報が混在し、多くの人々は良くわからない、仕方ない、自分には関係ないと思っている。

この映画は日本の原子力産業の要、使用済核燃料再処理工場がある六ヶ所村に生きる村人を取材している。六ヶ所村に生きることは核と共に生きることを意味している。けっして他人事ではない。それは私たちにとっても同じことのはずだ。

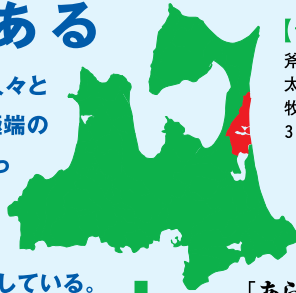
日本に55基の原発があり、総電力の三分の一をまかなっているのは事実。私たちの暮らしに電気は欠かせない。そう、日本人一億二千万人、全員が核技術による電気の恩恵に預かっているのだ。ではそれは私たちにとっていったいどんな意味を持っているのだろうか？ 賛成、反対を超えてその内実や意味を見つめてみようこの映画を作った。

六ヶ所村の再処理工場は世界で最も新しいプルトニウム製造工場となる。ここが稼働すれば日本は新たな原子力時代に入ってゆく。

どんな素晴らしい科学技術にも光と影がある。その両方を見て初めて私たちは自分で考え、選択することができるのではないだろうか？ あたかも鏡のように偏りなく現実を写し出すそんな映像作りをめざした、たとえそこに矛盾があろうと。あらゆる政治や運動、反核運動からすら自由な立場で製作した。

映画には賛成・反対、双方の村人が出て、語ってくれる。決して簡単な取材ではなかったがそこにこそ意味があると思ったからだ。原子力、それは一方では未来の可能性であり、また一方では命を脅かす存在として捉えられている。六ヶ所村の人々はそれぞれ、自分自身の選択を生きている。そんな人々の暮らしや日常から私たちの未来が立ち上がってくる。

監督 鎌仲ひとみ



【青森県上北郡六ヶ所村】

斧の形をした下北半島の付け根にある。太平洋側には豊かな漁場。内陸は米作りにはむかないが、牧畜に適した丘陵地帯が広がっている。30年前から巨大開発に翻弄されてきた。人口1万2千人。



【あらすじ】

2004年、六ヶ所村に原発で使った燃料からプルトニウムを取り出す再処理工場が完成した。稼働に向けて動き出した巨大な国家プロジェクトをめぐる様々な立場の村人たちが登場する。推進も反対も核と共に生きることを余儀なくされている。それぞれの選択した生き方と平行して着々と進む再処理計画。カメラは事故を起こしたイギリスの再処理工場へ。

その40年の歴史が六ヶ所の未来を予感させる。多様な人々の思いが交錯し、私たち自身の選択を迫ってくる。

六ヶ所村 Rokkasho-mura Rhapsody ラブソディー

プロデューサー:小泉修吉 監督:鎌仲ひとみ 助監督:河合樹香
撮影:大野夏郎、松井孝行、フランク・ベターツピィ 編集:松田美子
音楽:津軽三味線奏者 倭(やまと) [小山内薫、永村幸治、柴田雅人]、ハリー・ウィリアムソン
上映配給:巖本和道、藤井佳子、澤口佳代 編集スタジオ:ネオ P&T
録音スタジオ:東京テレビセンター 製作・配給:グループ現代 支援:彗文化庁
2006年/カラー/スタンダード/119分

上映会を開催してみませんか。
ただ今、自主上映団体募集中!

<お問合せ> グループ現代
TEL: 03-3341-2863 FAX: 03-3341-2874 E-MAIL: distribution@g-gendai.co.jp
公式ホームページ <http://rokkasho-rhapsody.com> 公式ブログ <http://rokkasho.ameblo.jp/>

【日時】 2013年6月14日(金) 開場17:00 上映17:30 (119分)

【場所】 おへそカフェ

【鑑賞費】 500円

【お申込・お問合せ】 info@ohesocafe.com / tel. 050-2020-5515 (水木のぞく9:00-17:00)

